

## 「第一志望校合格」のための併願のプランニング第1弾

学校の授業への取組み状況は入試の結果と相関関係が大いにあります。「心」(メンタル・マインド)の有り様の面と、「学力定着」面、「知識情報の吸収」面などいろいろな側面が絡み合ってくるからです。

さて、本日、『調査書発行願』が配布されます。Compass(ベネッセ)という「志望校判定システム」の使い方の説明もあります。そろそろ受験する大学を決定する時期です。第一志望校を確定させるのはもちろん、それ以外の併願校も慎重に検討したいもの。今回は、成功する併願プランの立て方を考えます。

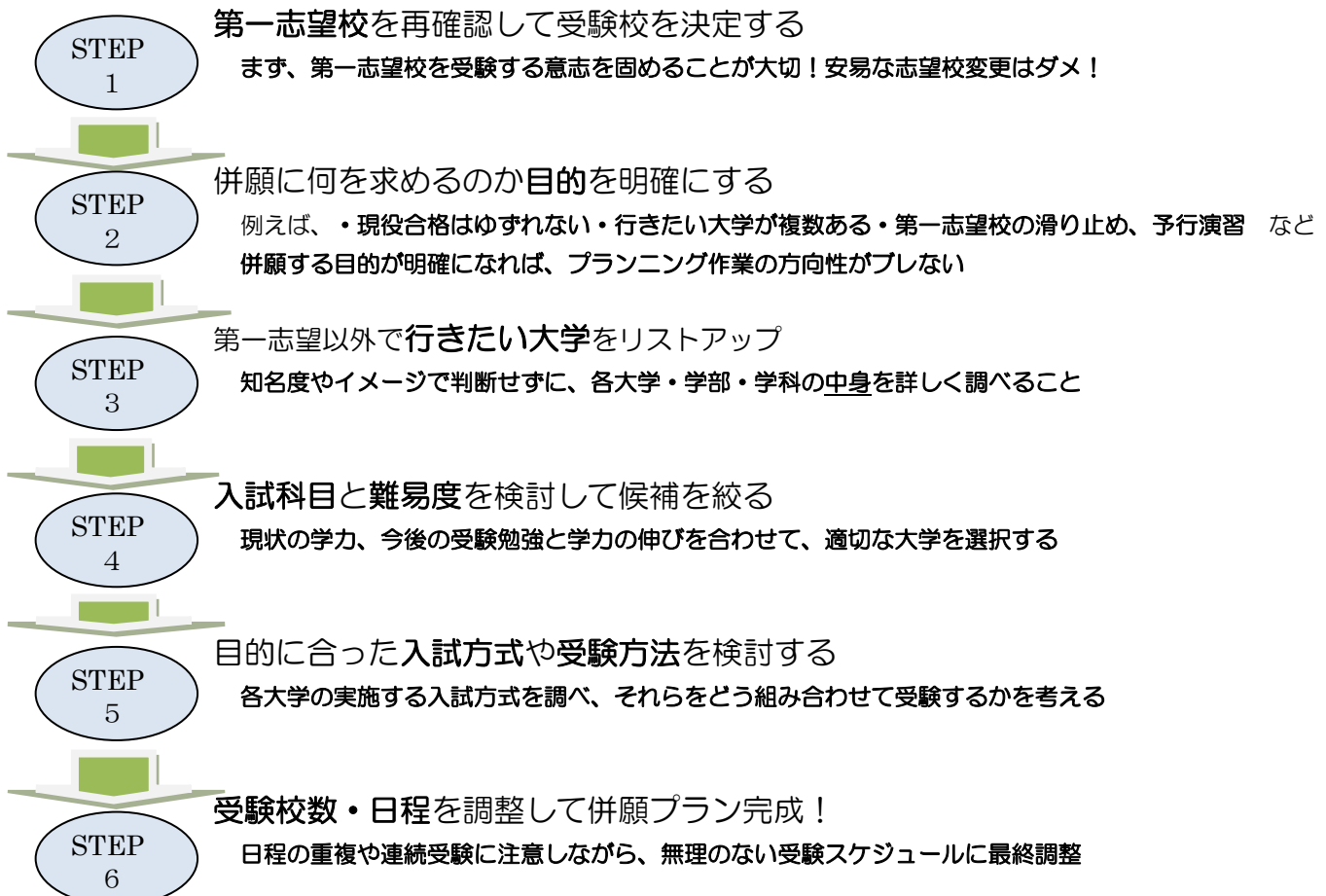
### 1. 併願の大前提を押さえる！

- (1) 第一志望校の合格を最優先に考える！
- (2) 「入学してここで学びたい大学」を併願する！

併願校選びを始める前に確認しておきたいことがあります。それは「最高の受験結果とは何か？」ということ。答えは「多くの大学に合格すること」ではないはず。「自分が本当に行きたい第一志望校に合格すること」であるはず。入りやすさだけで選ばず大学の4年間を有意義に過ごすためにも自分が入学した後も関心を持って勉強できる大学・学部・学科であるか考えてみましょう。

したがって、受験終了後に悔いを残さず、結果に100%納得できるようにするための大前提として、併願プランは第一志望校の合格を最優先に考えるべきです。そして、併願校についても、「入学してここで学びたい」と本気で思える大学を選ぶことが大切。そうすれば、たとえ第一志望校の合格が叶わなくても、結果に納得することができるはず。

### 2. 併願プラン完成までの流れ



### 3. 併願プランニングの核心部分

“2. 併願プラン完成までの流れ”で述べた、各STEPについてもう少し簡単にお話ししましょう。

#### STEP 1・2・3 行きたい大学をリサーチする。

- ① 教育内容 学部・学科名だけで判断しない！徹底比較して特長を見極める
- ② 校風・伝統 大学には独自のキャラがある！自分との相性は要チェック！
- ③ 所在地・環境 場所によって生活は変わる！自分の暮らしをイメージしよう
- ④ キャンパス やりたいことが実現できるか？施設・設備の充実度を調べる
- ⑤ 卒業後の進路 卒業後の進路(就職・大学院進学率)の傾向をつかむ。
- ⑥ 学費・奨学金 学費に無理がないかを確認！奨学金での負担軽減も考えよう

#### STEP 4 入試科目と難易度を見極める

《上に厚いダイヤモンド型の場合》

☆入試科目はここをチェック！！

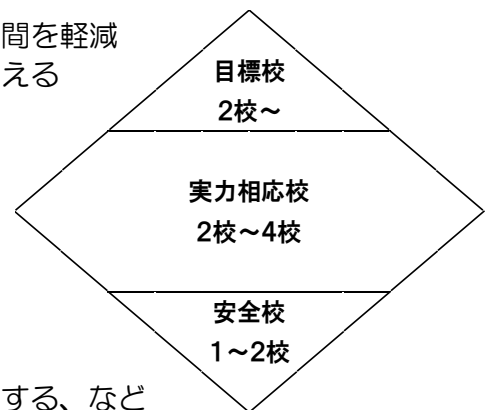
- i 第一志望校に合わせて受験する科目を統一 ←受験対策の手間を軽減
- ii 得意科目と苦手科目の配点比率に注目する ←得点戦略を考える
- iii 選択科目の条件や出題範囲も確認する

☆難易度はここをチェック！！

- i 合格圏の目安は自分の偏差値±3~5
- ii 実際のレベルや相性を過去問で確認
- iii 入試の難易が上下する変動要因(入試条件の変更など)に注意

☆英語外部検定試験利用をする場合の条件確認

- i 出願資格 合格圏の目安は自分の偏差値±3~5
- ii スコアに応じて外国語の得点に換算したり試験の得点に加点する、など
- iii オフィシャルスコアを活用できる期間(大学により異なる!!)



#### STEP 5 入試方式や受験方法を検討

私立大の入試方式は、非常に多様化しています。同じ大学・学部で何種類もの入試方式を実施するケースもあります。併願では入試科目や難易度だけでなく、どの入試方式でどう受験するかも重要。さまざまな入試方式には、それぞれ受験生にとってのメリットがあります。

- i 共通テスト利用入試
- ii 試験日自由選択制
- iii 全学部日程入試
- iv 学内併願

その他に得意科目を活かせる方式や3月実施の入試(これは最終手段)などもあります。

#### STEP 6 受験校数・日程を最適化する

経済的な事情が許すなら、何校でも受けて合格の可能性を高めたいと思う人もいることでしょう。でも、受験校数が多すぎると各大学の受験対策が手薄になるし、第一志望校の受験にも悪影響を及ぼします。それに、実際に入学するのは1校だけ。無駄な受験は避けつつ、より自分の希望に近い受験結果が得られる可能性をキープした併願プランを考えたいものです。

☆ 併願校の数と難易度の目安

- ・目標校(D・E判定) 2校以上
  - ・実力相応校(B・C判定) 2~4校
  - ・安全校(A判定) 1~2校
- ★合格しておく心理的に安心

※ 国公立大志望者は、「地方国公立大」「中期入試」「後期入試」を考える

☆ 受験スケジュールのポイント

- i 第一志望を最優先して全体の日程を組み立てる
- ii 入試難易度の【低いところ】から【高いところ】の“右肩上がり”の日程がベスト  
→ 「安全校」 → 「実力相応校」 → 「目標校」
- iii 本番の経験を積んでから自信を持って本命校に臨む
- iv 連続受験(最大3日までが目安)はほどほどにして体力・集中力をキープする
- v 各受験校の対策・復習を十分にできる日にちも確保
- vi 「入学手続き日」「合格発表日」の関係をチェック。★余分な入学金を納入しないように

※各自で作成する受験カレンダーは、10/31(金)~11/10(金)の個人面談で必要です。早めに提出しましょう。カレンダー作成は上記STEPで言うと6番目です。

優先順位はあくまで第一志望合格。そのための併願であることをお忘れなく！

★10月26日(木) 受験対策説明会(受験校の選び方、入試スケジュールなど)